

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいむクラブ小倉南 単位1		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日		～ 令和 8 年 2 月 10 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 8 年 2 月 1 日		～ 令和 8 年 2 月 10 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 15 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「理学療法士による専門的支援」 普段の療育活動に合わせて理学療法士による、個々の運動能力、理解度に合わせて機能訓練の活動もしており、各利用者に適した運動内容を提供している。	活動する内容によって対応する職員を検討し、より専門性を持ちながらもスムーズに活動に取り組めるように職員間の情報共有を重視している。	学校、保護者、相談支援員、他事業所とともにさらに連携を深め、その都度、利用者の成長やニーズに合わせた支援を提供していく。
2	「集団療育×個別支援・社会性・協調性の育成」 集団療育で社会性・協調性を育てつつ、個別支援でその子の特性や課題に寄り添っている。	個別支援計画に基づき、集団活動の中でも一人ひとりの目標にアプローチしている。 集団が苦手な子には、「見学」「部分参加」など段階的に関わられる仕組みをつくっている。 同じ活動でも目的別(感覚・言語・協調など)に関わり方を工夫している。	個別と集団をつなぐ、「中間の活動」の導入。 集団療育と個別指導を組み合わせることで、子ども一人ひとりが「自分らしく、周りに関わりながら」成長できる活動を充実させていく。
3	「支援プログラム・多角的視点の取り入れ」 毎月、支援プログラムミーティングを行い、他事業所の職員との意見交換を通じて、多角的な視点や支援方法を取り入れ、支援の質をブラッシュアップし、変化する子どものニーズにも柔軟に対応できるようにしている。	毎月テーマを決めて、1カ月を通してテーマに沿った活動内容を考案している。	他事業所の職員との交流の機会を増やしていけるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流など障害のない子どもと活動する機会がない。	地域の一般児童との自然な関わりの場が少ない。 保護者や関係者の間でも、「無理をさせたくない」「迷惑をかけるかもしれない」という気持ちがある。	地域の理解と協力を得る。 小さな交流から始める(児童館や放課後児童クラブと一緒に活動する日を年に1~2回企画していく)。 子どもたちの声を大切にする(子ども自身が交流に前向きになれる環境づくりを進める)。 バザー開催などで地域との交流を図っていく。
2	父母の会や保護者会等の開催など、保護者同士の交流の機会が少ない。	保護者参加イベントは開催しているが回数が少ない。	小規模な交流の場(お茶会などの開催)、 保護者向けイベントの開催(勉強会+座談会)、 など、実開催に向けての努力をしていく。
3	非常時マニュアルの保護者への周知。	連絡帳アプリに記入しているが、保護者への周知が十分ではない。	マニュアルの「見える化」と配布。ホームページやSNS等を活用して周知していく。 また、連絡帳アプリへの記入だけでなく、口頭でも伝えるようにする。